

「機」から捉える未来の計画行政学

東北大学大学院農学研究科 木谷忍

1. はじめに～熊田先生の思い出される5つの言葉

- すべての生命現象は遺伝子のなせる業

ドーキンスの利己的遺伝子説

- 社会工学は社会医学である

「病気を診ずして病人を診よ」(高木兼寛)

- 社会を計画する目的は、「自由」の拡大のため

自由とは何か...西欧思想?

- 行政は社会を操作(マニピュレート)している

民の上に立つものの自覚(上杉鷹山)

- 日本国憲法第15条2項について

すべて公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない。

西欧思想の正義論について

「きみい～、正義っていうのは戦争の論理なんだが...」 (JAPA23(2000)、広島大学)

J.ロックの権利思想にもとづく西欧思想の正義

- 個人の基本的自由の保障と平等
道徳性の導出装置: 公平な観察者(A.スミス)、無知のベール(J.ロールズ)
- 分配的正義
平等とすべき対象: 基本財、ケイパビリティ、機会...
個々人の生きる目的(人の行動原理): どうすれば成功するか
各人のLife planへの責任の有無(R.ドォーキン)
- 匿名社会の確立
癒着による経済社会への悪影響(経済効率性)、不平等(経済格差の是正)
利潤追求(私利私欲を生かすには必要な社会構造)
- ケアの倫理(C.ギリガン)
L.コールバーグの葛藤

西欧思想観の近代日本への影響

- 学問のすすめ(福沢諭吉):万人平等思想
天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず
- 公共哲学:滅私奉公から活私開公へ
- 公共経済学の氾濫
近代ミクロ経済学による公共性の正当化

— 公共選択論? (民意を集計するってどういうことだ?!)

熊田先生の公共選択論は、「大欲」にもとづく公共的意思決定のありようを探るもの

大欲とは何だ? 私利私欲に走らないってことだけ?

東洋思想の正義論について

東洋思想の正義

- 儒教(孔子、孟子、朱子学) ~ 陽明学(王陽明) ~ 武士道
知行合一
- 儒教の徳目(五常・五倫)
仁義礼智信
父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信
- すべての個人に渡る平等思想ではない ~ 分度(身分の限度): 二宮尊徳
個々人の生きる目的(人の行動原理): どう行えば美しいか
・嘘つき、卑怯、が最大の侮蔑(最も汚い行為)
西郷隆盛 vs 山岡鉄舟 上杉謙信 vs 武田信玄
- ケアの倫理(C.ギリガン)に融和的?
経済合理性、法論理性に先立つ、人としての生き方
...仏教が根深く存在している?

2つの正義における葛藤

- 個人の尊重 v.s. 地域社会(歴史性)の尊重
 - 自由 v.s. 人の道
- 西欧観では、個人のlife planを尊重し、その自由を保障する どう社会をつくるか？
東洋観では、天命を受けた個人が人道を学び、社会の中でどう美しく生きるか。

両世界観をつなぐもの: 神への畏敬(創造主との契約、多神教(日本?))

ケアの倫理: 私利私欲による行動の否定

禁欲の人生計画の陶冶: 分配的正義論と武士道

基本的に合わないもの: 外部観測 内部観測

機会の捉え方: 形式的かつ設計されるもの 与えられた契機での「機用」の積み重ね

歴史はつくるもの(科学的予測) 歴史はつくりられたもの

人はつくりられたもの(創造主) 人はつくるもの(天道に沿って人道を身につける)

しかし、これらの思想は、おのずと計画理論、計画行政の基本フレームに影響する。

新しきものの中には修すべきことがあり、

古きものの中には見直すべきことがある。

修すべきこと: 社会の設計論

見直すべきこと: 人間の教育論

機について

機会 { 与えられるもの 西欧の正義
 { つくられるもの(なおすもの) 東洋の正義

分散型社会(地方分権)の正当化

個人が何かをなすための機会を与えるために

- 情報効率を高める(地域の人の方が情報を持っている)
- 集中管理からリスクの分散へ ~ 安全の社会

個人が美しく生きるために(全機するために)

- 大欲の元となる小善の積み重ね
- 「何を」社会から「誰が」社会へ ~ 安心の社会

人々が美しく生きる社会づくり

地域社会の創造

地域創りは、作る(つくる)、のではなく、修す(なおす)もの。

「作る」は創造性のない大量生産社会に、「修す」は個性豊かな創造性ある地域社会と親和性が高い。(日本人の障子における心持ち)

地域の人びと

美しく生きる = 全機した生き方をする。

幼少期からの人の道に関わる教育・活動

文化資本の伝承(社会資本ではない)、初期教育と一体化

政治と行政

命もいらず、名もいらず、官位もいらず、金もいらぬという人は始末に困る。
だが、この始末に困る人でなくては大事はできない。(中略) 正しい道を歩
き続けているから自信があって何もいらぬというのである。『西郷隆盛
の山岡鉄舟評』

土光敏夫、細川護熙、根本良一... 限りなく遠のいていく仁政

最後に ~ 熊田先生が私に残してくれたもの

- すべては遺伝子のなせる業。

天道と人道は区別される。人は(地域)社会でつくるもの ~ 学習(拡張系)

- 社会工学は社会の医学か？

健康な社会がどんなものかが問われて初めて、社会の病気を治すこと。

- 社会の計画は、自由を拡大するため？

法・制度が最小限(自然法のみ)になるような社会環境づくりこそが理想。

= > 道德教育の復活

- 行政は社会を操作(マニピュレート)している。

人々の社会的立場は平等にはなりえず、おのずと身分の違いが生まれる。

したがって治世者ほど道德教育が必要になる。

- 日本国憲法第15条2項。

全体の奉仕者とは、文字通りみんなに平等に奉仕することではなく、

みんなを思いやるという意味。文字通りの平等な奉仕は、仕事をしないのと同じ。

- 熊田先生の公共選択理論: 大欲

大欲とは大きな欲というより、世に知らしめるようなものではなく、小さなこと(善)を積み重ねていくもの(積小至大)。

上杉鷹山の仁政に思う

人が「全機」するための一つの方法：儒学（教育）

「機」に見る鷹山の仁政

- 君主としての宿命（前藩主、重定の養子）
- 師との出会い
- 天明の大飢饉と財政の破綻
- 強力なブレーン（家臣）の存在

誓詩の奉納（マニフェストとは対照的） ~ 義（何をなすか、ではない）

興讓館の創立（建立ではなく、再建） ~ 智（庶民への教育（儒学））

農民への愛情（民の父母の精神） ~ 仁（政治と道德の不可分性）

七家騒動（保守的家臣への配慮） ~ 信（敵対する人への信の心）

伝国の辞（推譲、重定への礼） ~ 礼（機をみて退く態度）

師への敬慕 ~ 礼（農民、庶民への講和活動）